自己満シリーズ

おたっこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
自己満シリーズ

【Ｎコード】
Ｎ８７３８Ｏ

【作者名】
おたっこ

【あらすじ】
とりあえず自己満シリーズ第一回目！、、、ということでねｗｗ
ども、おたっこですｗｗ
えと、とりあえず初投稿です。
とりあえずよんで見てくらはい。

第一弾

キーンコーンカーンコーン、、、
学校の休み時間終了を告げるチャイムが鳴り響く。
私は一人、教室で絵を描いていた。
（たしか、三時間目は体育だっけ、、。）
ふと、時間割をチラ見する。やっぱ、体育だ。
「どっちみち、今日は体育着忘れたし、というより家に置いていったし、見学か♪」
――――正直なとこ、私は体育が苦手。と、いうより、嫌いだ。
あんな退屈なことするより、先生にこっぴどくしかられる方がマシ。
なぜか、そう思える。
私はさっさと教室を出て行った。
つるっ、、ゴンっ！！！
私は、一回、首からおもいっきり、転んだ。
なんだか、あんまり痛みを感じない。
まあいいや、血も出てないみたい。
なんだか、いつもより、廊下はどんよりとした空気だ。
誰もいない。どこかから、叫び声や、悲鳴（↑同じようなモンかｗｗ）が聞こえてくるけど。
どうせ、男子とかが騒いでいるんだろう。
またケンカでもしたかな。
って、ん、、、？
なんか、廊下の奥の方に懐かしいけど、なんだか、どこかへいってた（？）ような、
人の影が見えた。
よく、見ると、それは、
私よりも少し年下で、女の子で、腰まで届く黒いロングで少し色白で、、、、！！

い、イヤ、そんな訳ない、、。
あの子は、、私のアの旧友は、、
交通事故で2年前、死んだんだから！！
、、背筋がゾクゾクしてきた、、。
鳥肌立ちまくりだし、体がガタガタブルブルいってる。
「そ、、そんな訳ない。ア、、あのコは、死んだんダ、、、。生きてるワケないよ、、。」
と自分に言い聞かせているものの、声まで震えている、、！
「久しぶりだネ、、あズさちゃン、、、、、、、、。」
う、、、嘘、、、嘘だ、、、、、、。
けど、あのコは私の名前を呼んだ、、、。
「よ、、、、ヨウコ、、？」
篠原洋子。
2年前に死んだはずの私の親友。
「ウン、、、ソう、、、洋子よ、、、、、。」
「ど、、、、どうして、ココに??」
ヨウコは私をなめているかのような視線で私を見た。
「それハ、コっちのセリフ、、、、、。だって、、、、
アナタ、サッキ、転んデ死んだのにね、、、。
ほんっと、マヌケよね、、。気づいてないなんて。」
え、、、？
私は驚きを隠せなかった。
「あずさ、、、後ろをふりかえってごらんよ、、。」
「う、、後ろ？」
私はヨウコに言われるまま、後ろを振り向いた。
「あずさあぁぁぁぁぁ！！！！」
「サユっち、、？」
さっき、私が転んだところに人だまりができている。
そこへ、いって見ると、
生気を失い、頭から血がドクドク出ている私を

ダチのサユっちが抱きかかえ、号泣している、、。
「ちょwwサユっちてば、、！」
サユっちの肩をどんとたたいてみたが、
手がサユッちの体を貫通している！
「無駄だヨ、、？けど、自分の体に触れてみ??」
「へ？」
また、言われるがままに私と分離した体にふれてみる。
すると、、何故か体へとぐいぐい吸い込まれていく、、、。
そこで私は意識を失った。
しばらくして、目が覚めた。
「、、、、、！梓、、！！！あずさぁぁぁぁ！！！！！（泣）」
「サユっち！？」
「よかった、、死んだかと思ったよ、。」
「あぁ、、」
私は重たい体を起こした。
「あ、、っ起きちゃマズいって！！」
「ズキ！！」っと、頭が痛む。
「うっ、、、痛ぁ～っ！！」
「あぁ～～、、梓、じゃ、戻るね。」
私は体をもとに戻し、
「うん。ありがと、、ね。」
「そんな、、べつにお礼してもらわなくてもいいって！！」
といいながら教室から出て行った。
「へぇ～～、、サユと仲いいんだww」
「ん、、、あぁ、ヨウコ？、、、、ってエエーーーー！！」
どうやら、私を尾行してきたらしい。けど、、、、幽霊見えるようになったんかウチは。
「そうよ、ついでに頬引っ張ったって無駄よぉ？、、
てか、尾行なんて、言わないの。まず、第一にお礼を言うべき相手は私なんじゃない？？？」

「あ、、、そっか、ごめんね。それとありがとう。、、、って、心読めるの！？」
「ええ。幽霊になって一年くらいなると、かってに身につく能力よ。」
私は心の中で、
（じゃあ、どうして、生き返る方法知ってたのに、自分はそれを実行しなかったの？？）
「さっそく、使ってきたかｗｗえええとね、そもそも、知ってたんじゃなくて、
できるかなって、おもったの。」
（どうして？？）
「ええとね、これ思いついたのが、葬式とかなんかで自分の体が灰になった４ヶ月位、後でさ、
なんかうろちょろしてたら、あんたが飼ってた金魚が死にそうだったのよ。
それで、その金魚に触れてみたら、ソイツと一体化しちゃっててさ。」
（へぇ、、、。）
「へぇじゃないわよｗｗ結構きつかったんだし。」
（サーーセンｗｗｗ）
「で、灰になってた、ウチのご遺体にふれてみたら、、」
「あえなく失敗ｏｒｚｗｗ」
（で、それで私を実験台がわりに、、、？？）
「ヒドイ言い方だけど、大正解。」
「あはは、、。ｗｗ」
「さて、それじゃ、おいとまするかなｗｗ」
「へ、、、？」
「言葉のとおり、、、ばいば～～～い☆」
「いかないでえぇぇぇぇぇ、、、、、！！！！！」

、、、という夢をみたのサ☆

なんてねｗｗ

もしかしたら、続くかも、、、！？

ないかなww

第一弾（後書き）

えとですねぇ、、、
キーワードにボカロ出てるのはこのシリーズでそういう系だそっかなー、、
って思ってるからです。
まァ、そんな感じで。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8738o/

自己満シリーズ

2010年11月13日01時26分発行